

令和7年度 自己評価・施設関係者評価表

評価項目の達成及び学校関係者評価

評価項目	実態分析・考察 (○) 改善案 (★)	施設関係者評価委員の意見
〈情報提供〉		
① 保護者や地域に向けて、園の情報が分かりやすく伝えられている。	○「RAKURAKU」アプリの導入から4年が経過し、職員・保護者ともに活用の定着が図られ、園との連携が円滑に行われている。また、預かり保育の申し込み等、紙から電子へと改善し効率的に運用できている。 ○毎日必ず活動の様子をHPを通して伝えることで、参観いただけない保育の内容についてその意図とともに継続的に発信できている。 ★保護者の閲覧に限定した専用ページを廃止し、個人情報に配慮した情報のみをHPに掲載	・運営業務の効率化を図り保護者への周知も適切に行っており、円滑な業務が推進できている。 ・保育室前に設置している保護者向けのメッセージボードを活用し、その日の出来事を伝えるとともに、HP更新を毎日行うなど園の情報発信に努めている。
② 保育者は、登降園時やクラス懇談の際に子どもの様子をよく伝えている。	○定期的に懇談会を設定し、子どもの発育や友だちとの関係について丁寧に伝えている。また、保護者が感じる課題等については、長期休業に入る前に解決が図れるよう日程を調整し実施している。 ○預かり保育を利用する保護者にも、担任との連携が図れるよう担当者間で密に連携を図り、情報共有を行っている。 ★預かり保育での安心感を持っていただけるよう、丁寧な保護者対応の徹底を図る。	・園迎えの保護者には、受渡しの際直接その日の特徴ある出来事等を伝えている。また、保育室前ボードを活用して、その日の活動内容を提示していることで、丁寧な連携が図れている。 ・預かり保育利用者には、よつば担当が担任と連携し当日の伝達事項がある場合、わかりやすく伝えられている。また伝わりにくい内容については、直接連絡をするなど、丁寧な配慮を感じることができる。
〈保育活動〉		
③ 育ちの上で必要な、子どもが楽しんで参加できるような行事がある。	○令和7年度創立90周年を迎えるにあたり、東文化会館において記念式典を開催した。通常では体験できない舞台での発表会に向けた取り組みにより子どもたちの自尊感情の向上を図ることができた。 ○年長組が実施する夏休みお楽しみ保育では、消防職員による、花火体験や、外部串によるパフォーマンスなどを企画し通常では体験できない行事の充実を図ることができた。 ★新しい取り組みを常に企画し、意欲的な活動となる工夫を図り続ける。	・創立90周年の記念行事を活用し、普段経験できない大きな会場での企画は、子どもたちの自尊感情を高め、意欲を持って活動に参加する機運の醸成に寄与できていた。 ・夏季に実施した年長組お楽しみ保育では、腹話術や花火教室など外部講師を活用した豊かなプログラム構成により、多様な体験を十分に確保していた。 ・描画造形活動、音楽、劇、誕生日会などで、子どもの表現活動を大切にし、どの子どもも主役になれるように配慮している。

④ 友だちと仲良くする気持ちを育てようとしている。	○異年齢の子どもたちの交流は、互いに良い刺激があり、定期的に取り組んできたことの効果を強く感じる保育となっている。 さらに、交流内容の充実を図ることで園の特色となるようさらなる工夫を図りたい。 ○登園時の保育室引率を年長・年中が行うことで自信となり、成長を図る取り組みとして定着しつつある。 ★異年齢で自然な関りが図れるよう、さらなる内容の検討を図る。	・異年齢保育のグループ編成や取り組みの内容について、職員間で情報を共有し、毎回見直し改善を図るなど、丁寧な取り組みが、子どもたちのつながりをより良いものへと発展させることができている。 ・お迎え等での適切な言葉がけによる子どもたちの自尊感情の醸成が適切に図られている。 ・保育者は、子どもの様子をよく観察し、子ども同士のつながりを深めるような言葉かけや対応を工夫している。
〈子どもの姿〉		
⑤ 子どもは園での生活を喜び、楽しんで通っている	○個々の興味関心に合わせ、テラスに設置した花壇や、園庭など限られた自然を生かした保育を心がけることで、ダンゴムシなどの観察に夢中になる様子が見られる。 ○縄跳び、鉄棒など多様な遊びの環境を整えることで運動能力の向上を図りつつ、自分の体を自由に操れる健やかな育ちを保証している。 ★限られた環境の活用とさらなる工夫	・子どもたちの発達段階や個々の特徴・特性を把握した保育によって、子どもたちは安心して生活できる環境が整えられている。 ・自由遊びの時間など、各保育室に準備された玩具を使ったり、お気に入りの絵本を読んだりする姿が見られる。また、園庭遊びでは気に入りの遊具を繰り返し楽しむ姿が見られ充実した保育を感じる。
⑥ 日々の活動を通して、子どもの心身の成長を感じることができる。	○伝統的な行事を適時適切に設定することで、豊かな四季の変化とともに、これまで育まれてきた文化を継承する態度の育成が図れている。 ★歌、製作のみならず、多様な提供方法の工夫を図る。	・家庭では十分に体験できていない伝統的な行事を体験する中で、心豊かに成長する様子がうかがえる。家庭保育だけでは体験できない貴重な機会を設定することができる。
〈保育者〉		
⑦ 保育者は、子どもや保護者に適切な言葉遣いや温かな態度で接している。	○近年、貧困となりつつある言語環境を意識し、保育者が使用する言語にも注意を払い、伝わり方を考えた使用を心がけることを目標に共有している。 ★保護者に対する、丁寧な言葉掛けや信頼ある対応	・担任のみならず、すべての教員が情報を共有する中で、適切な指導がなされていることが感じられる。 ・笑顔を絶やさず、子どもや保護者の気持ちに寄り添い、穏やかで丁寧な言葉遣いを心がけた指導がなされている。
⑧ 保育者は、仕事にふさわしい身なり節度ある行動・態度が取れている。	○保育士のユニフォームを定期的に配付し、統一感を持ったスタイルでの保育に努めている。 ★職員同士で常に注意喚起を図り、今後も高い意識をもって接する。	・常に活動しやすい服装をしている。また、子ども、保護者、同僚に対して相手を尊重した態度で接している。
〈安全管理〉		
⑨ 園は、集団生活に必要な、きまりや約束を指導している。	○園生活のしおりの見直しを毎年実施し、集団での生活のルールを保護者と共有することで、統一感のある指導を心がけている。	・環境整備を心がけ、整理整頓が行き届いた保育室を維持する中で、適宜適切に集団生活のルール指導ができている。

⑩ 園は、地震や火災などに対して、避難訓練や対策をしている。	○毎月、避難訓練（火災、地震、不審者対応）を計画的に実施し、日々取り組んでいる。 ★突然の災害時に生かせるよう、日頃より緊張感を持った園児引き渡しを心がける。	・毎月、避難訓練を繰り返し実施することで、子ども達が必要な行動を理解し実行できるようにしている。 ・園内だけではなく、消防署とも連携を取り訪問指導を実施するなど、丁寧で継続的な取り組みがなされている。
〈環境整備〉		
⑪ 園は、子どもにとって楽しんで遊べる教育・保育環境の工夫をしている。	○砂場の砂の補充や老朽化した遊具の保全を定期的実施し、安全で充実した遊びが展開できる環境管理を実施している。 ○保育内容及び情操教育の向上を図るため、玩具や絵本の充実を積極的に行っている。 ★劣化した遊具等の廃棄と新規購入を推進	・発達段階をとらえた適切な玩具購入を計画的に実施されている。またPTAや地域自治会とも密接に連携し、創立90周年記念の遊具（すべり台）を設置された。地域に支えられている幼稚園として守られていることが伺える。 ・活動の目的に応じて、活動場所や活動内容を工夫し、子どもたちが楽しめるようにしている。そのための研修も実施している。
⑫ 疑問や希望、苦情等の窓口が整備され、適切な対応をしている。	○定期的実施する保護者アンケートの継続とともに、子育て支援や園への要望などを適宜行えるよう、PTAの協力も得た開放的な環境が形成されている。 ★誰もが関われるPTA活動を合言葉に情報収集をするルートの定着を図る。	・らくらく園児システムを活用した連絡体制の充実により、依頼・要望を簡単に迅速に伝えることができるようになった。 ・担任はこまめに保護者との連絡をとり、積極的に保護者の話を聞くようにしており、必要に応じて、園長、教務、主任等も含めて組織的に対応している。
総合評価	・園の運営業務効率化を図るため導入した「らくらく園児管理システム」のICカード利用など活用範囲を拡大することで、預かり保育の申し込みや集金に係る業務が簡便となった。管理の透明化・明確化は保護者からの信頼にもつながっている。今後は、バス機能にも範囲を拡大し、運行状況を保護者に適切に提供できるよう積極的に進めていきたい。 ・園児トイレの改修に続き、職員・来客用のトイレの改修により、参観等での保護者対応としての環境整備に取り組むことができた。安全で過ごしやすい環境整備について改善に努めていきたい。 ・様々な行事を設定し計画的に実施することで、生活の中で必要なマナーや集団行動でのルールの定着を図るなど有効な保育実践ができていることを保護者アンケートにおいて評価いただけた。引き続き、発達段階に応じた適切な保育について継続的に研修に取り組んでいきたい。 ・幼保小の協同による架け橋期の教育の充実に向け、年長組の公開保育を継続して設定できている。グループ校である登美丘西小学校との連携を深め、堺市共通版カリキュラムに基づいた新たなカリキュラムの作成を進めていきたい。	